



みなさんの願い  
実現へ全力!

三宅村  
村議会議員

# 平川大作

ひらかわ  
だいさく

1955年静岡県生まれ。4歳から三宅島育ち。坪田小、坪田中、三宅高校卒。都内で修行後、島に戻り工務店経営。通称「大工の大ちゃん」。2008年より三宅村議会議員（3期）。現在、村議会総務文化常任委員長。家族は妻と2男2女。柔道初段。釣りが大好き。



大工として働いてきた私がモットーにしてきたのは、「家づくりは住む人の立場に立って」ということです。その家で暮らす人が、日々幸せを実感できるような家を建てるからこそ、「よい仕事」の証しだと考えるからです。議員として関わるようになった村政も、その根本は同じだと思っています。村のみなさんが、毎日のくらしのなかで住んでよかったと思える三宅村にしていくことが私の目標です。みなさんと力をあわせて、よりよい三宅村をつくっていくため、ひきつづきがんばります。

お困りのこと、なんでもお気軽にご相談ください

日本共産党三宅支部が発表した、平川大作議員の政策と活動を紹介します。



2019年12月号外  
日本共産党三宅支部  
電話/FAX 6-0132

## 日本共産党



平川大作 この4年

みなさんの声に応えるためがんばりました

### 緊急呼び出しブザー

いたましい孤独死の防止へ、見守りの充実とあわせ緊急ブザーの導入を求めてきました。65歳以上の希望者への配布が実現しました。



### 遊具やトイレの設置が実現



こどもの遊び場確保、遊具の設置を求めてきました。旧坪田小にジャングルジムなどが新設され、湯の浜のトイレも完成しました。

### 噴石シェルター



写真は鹿児島県桜島のバス停を兼ねたシェルター

避難の際に待機することにもなる村営バスの停留所に、噴石シェルターが整備されることになりました。

### そのほかにも



マイマイガ 被害への対策、新たな観光資源となる温泉の試掘、飼い主のいない猫の避妊対策など、みなさんから寄せられた要望についても、議会質問で求めてきました。

どんな小さなつばやきにも、切実なねがいがあると心して、議員活動にとりくんでいます。みなさんと力をあわせ実現した人工透析のように、少しずつですが、希望ある三宅の未来をつくりたいと思います。

## 都議団、国会議員団と連携し、東京都にも国にも島のねがいをとどけます

### ぜひお読みください

「桜を見る会」ほかスクープ満載  
「しんぶん赤旗」日曜版(週刊) 月ぎめ930円

都政をはじめ、東京の「いま」を伝える週刊新聞  
「東京民報」月ぎめ400円



伊豆大島で台風被害の状況を聞く党都議団。聞き取った内容を生かし、都議会での支援の具体化・促進を求めています。



山添拓参院議員はいち早く新島村を訪れ、青沼村長(中央奥)から被害の実態、復興に向けた要望を伺いました。

※ 「しんぶん赤旗」「東京民報」のお申し込みは日本共産党東京都委員会のホームページでも受け付けています。

# 都立広尾病院を守るために 声をあげましょう。

小池都知事が、広尾病院をはじめとするすべての都立病院の独立行政法人化をすすめる方針を打ち出しました。「機動的な運営」のために、都立の直営をやめるといのです。利用者への負担増や島しょ医療を含む不採算医療の後退が起らないか心配です。

■独立行政法人化された病院では患者へのしわ寄せが現在の都立病院では、重要な変更は都議会での手続きが必要ですが、「独立行政法人」になれば、議会にかけることなしに不採算医療の切り捨てや患者への負担増が可能になります。実際、独立行政法人化された東京都健康長寿医療センター（昔の養育院）では、全病床の4分の1が有料個室になり、使用する場合には入院時に10万円の保証金が徴収されるようになったということです。

検討をすすめている側は、改革の理由を「経営改善のため」と説明しています。「都立病院」としての制約がなくなって、「もうけ優先」に突っ走る危険はないのでしょうか。

■島の「命の砦」だから東京都が責任をもつ都立病院で  
広尾病院は島で暮らす私たちにとってかけがえのない「命の砦」です。病院の経営上はけっして「儲かる」分野ではないでしょうが、経営効率優先で島の医療が切り捨てられたら、私たちは困ります。

各島で「広尾病院は都立のまま」と声があがり、独立行政法人化の中止を求める署名が取り組まれています。利島では4割近い人が署名したそうです。こうしたなかで、小池都知事が打ち出した都立病院の独立行政法人化は、来年おこなわれる都知事選をはじめ、都政の大きな争点になると予想されます。

■「都立」の広尾病院を守るため三宅島からも声あげよう  
大きな怪我や病気のと看、私たちが頼りにする広尾病院は、暮らしの安心の要です。東京都が責任を持って運営する都立病院として充実させてもらいたいと考えるのは当然のねがいです。人の命はお金では買えません。「もうけ」優先ではなく、住民の命と暮らしを第一にする政治こそ必要です。「都立病院の独立行政法人化をやめさせよう」「都立の広尾病院を守ろう」の声を三宅島からもあげていきましょう。



## 東京都に対する要請をおこないました

東京の日本共産党島しょ議員団として、東京都への要請をおこないました。都立広尾病院の存続をはじめとする島の声を、平川大作議員も訴えました。



11月26日・東京都庁。平川議員の隣(写真右端)は原のり子都議。



## 「独立行政法人化」で島の医療は守られるのか？

### 東京都は島の暮らし守って

都立病院の運営のために、年間400億円が使われているそうですが、東京都の年間予算は全体で約14兆円。福祉大国スウェーデンの国家予算を上回り、3兆円かけてオリンピックを開催してもなお3兆円の貯金があるというではないですか。

年金を減らし続ける安倍政権のように福祉を後退させるのではなく、むしろ国に抗して、徹底的に私たちの命と暮らしを守ってほしいものです。

(神着・都月 次郎)

### キッパリもの言う平川さんに期待

台風15号で新島が大きな被害を受けたとき、一番早く駆けつけた国会議員は日本共産党の山添さんだったと聞きました。

台風被害だけでなく、年金や医療のことなど、国や東京都にやってもらいたいことはたくさんあります。

困っている人に寄り添い、言うべきことは例え相手が誰であってもキッパリ言う、共産党の議員さんらしい働きを平川大作さんに期待します。

(神着・津村 明)



都立病院をまもり充実を求める署名を集めています。ぜひご協力ください